

第8回しが夢翔会実践報告会



テーマ 『生活を豊かに創ること』

～ 一人ひとりの願いにたどりつく支援 ～

開催日時：平成23年2月19日(土) 9:30～16:00 (9:00 会場)

開催場所：滋賀県立長寿社会福祉センター(レイカディア)1階 大教室

第1部 実践報告 9:30～12:10

テーマ『生活を豊かに創ること』

《コメンテーター》

石井裕紀子 氏 <びわこ学園医療福祉センター野洲>

しが夢翔会の各事業から以下の実践を報告します。

- ① 入所における医療面で課題の出たきた利用者の生活作り
- ② 入所のダウン症ケースへの長期的な実践と経過
- ③ 入所の自閉症(行動障害を呈する)のケースへの取り組み
- ④ 坂本ケアセンターすみれからは、高齢のダウン症ケースの実践
- ⑤ ショートステイからはケアホーム移行の取り組み
- ⑥ ヘルプステーションからはグループ支援の取り組み
- ⑦ ケアホームからは高齢化、要医療の事例を通して見えてきた課題を提起

注:上記の内容の内、一部紙面のみでの報告になるものがあります。ご了承下さい。

第2部 パネルディスカッション 13:00～16:00

『大津市における障害児者福祉の現状と課題』

13:00～発題「相談支援でつながる自分たちが主人公の人生」
障がい児者相談センターみゅう より

13:30～ パネルディスカッション

【パネラー】

鷲見 徳彦 氏 <(市)福祉こども部障害福祉課長>

西島 悟司 氏 <(福)おおつ福祉会常務理事>

藤木 充 氏 <(福)しが夢翔会統括施設長>

【コーディネーター】

石井裕紀子 氏 <びわこ学園医療福祉センター野洲>

16:00～ 第2部 閉会

会場案内地図とアクセス



～交通アクセス～ (バスまたは自家用車でお越しの場合)

※JR 瀬田駅から長寿社会福祉センターまで 約15分 下車すぐ

※JR 瀬田駅から滋賀医科大学西門まで 約10分+徒歩約5分

※JR 南草津駅から長寿社会福祉センターまで 約26分 下車すぐ

* バスの時刻は各バス会社の時刻表でご確認ください

* 自家用車でお越しの場合は駐車場完備されております。

注:昼食は各自ご持参いただくか、最寄の食堂までお願いします。(センター内にも食堂がございます)

主催:社会福祉法人しが夢翔会(研修研究部)第8回実践報告会実行委員会 <申し込み不要 参加費 500円>

問い合わせ:【法人本部】社会福祉法人しが夢翔会 ステップ広場ガル 大津市石山千町270-3 TEL077-534-4477

～ 開催にあたって ～

確かな実践をするということ

13年前、大津では最初の、滋賀県では最後の知的障害者の施設としてステップ広場ガルは立ち上がりました。その当時としては先端の全個室・ユニット制、職住分離や毎日入浴・完全同姓介護などを最も重度な障害者を中心とする入居者に対して実施する生活施設を選択しました。しかし、通常の新規施設の立ち上がりの状況では収まりきれない大変さやしんどさが、職員にも利用者・家族にもあり、あたかも座礁寸前の難破船のようではなかったかと思います。例えばどんなに志の高い環境であっても、それを支える職員集団の集団的力が伴わなければ、無断外出や人権侵害などの事件・事故を生む事となり、「利用者を加害者にしない。利用者が人権侵害されることを許さない。」という基本的な誓いをも押しつぶす事となります。そして、長い間、圧倒的な低賃金、引き続く離職、諦めにも似た感情を醸成するほどの建物・設備の荒廃の中にありました。利用者や家族、職員の気持ちを思うと心塞ぐ想いがします。

家族会・後援会と市・県の後押しで建物・設備の大規模な改修に手がつけられたのは平成15年でした。「やっど、ここからやな」このときの感想です。少しずつ取り組んできたヘルプ、デイサービスや放課後支援、相談支援、そしてケアホームでの暮らしの支援が少しずつ形になり始めました。今、自分たちが、本当に必要だと思う支援を切り開いていくのだという職員の気概こそが、すべてであったと思います。そして、おそらく最も大きな分岐点になったのが「強度行動障害処遇事業」の受託と地域での実践を積み上げ協働を実現するネットワーク作りにあったのだと思います。

「行動障害の処遇事業を始めたい」という私たちに障害者更生相談所の中川さんから「行動障害の処遇へ対応するには「覚悟」が必要なこと」や「施設内だけの対応では、限界があること」から、地域全体の処遇システムのなかに、専門機関としての「強度行動障害処遇」を位置付け直し支援のネットワークをきちんと継続させること、が求められるのだという事を教えられました。

そして、「大津湖南行動障害支援ネット」は6年が過ぎようとしています。この6年間は、それまでの「ステップ広場ガル」の「働き」を地域に開いていく過程であったと思います。大津や滋賀県の様々な現場で役に立つ実践を共に築くことを目途に、少しずつだけれど確実に進んできたように思います。

これまでもたくさんの先輩や同輩の思いのいっばい詰まった「仕事」を引き継いでできました。相談支援や行動障害の処遇もそんな仕事です。そして「地域で支える」仕事の中川さんから引継ぎつなぐ事として加わりました。

様々に想いが廻ります。残念ながら、これからは一緒に進めるということは叶わなくなりました。それだから余計に、これからも、しんどいことから目を離さず、必要なことに真摯に取り組む私たちでありたいと思います。

「誰か」がしなければならぬ ことであれば

「その誰か」になること

それが福祉の現場の人であること そのものである

しが夢翔会 統括施設長 藤木 充